

日時:2008年3月30日(日)午後2時から5時
会場:寺島集会所(墨田区東向島1-23-10)

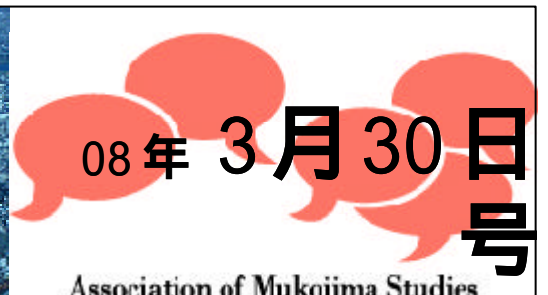


2007年度 第3回 交流のサロン

第一部 学生による研究・提案発表会 (2時~3時45分)

- 松田東子(一橋大学社会学部4年)「サンフランシスコ市ミッション地区の壁画に見るまちとアート」
井上博水(一橋大学社会学部4年)「更新文化の中の地域 - 空き家が語る郊外地域社会 -」
村松健児(東京工業大学社会工学科4年)「東京近郊における農村期以来の地縁組織の変容と地域活動の関連に関する研究」
飯島緑(東京工業大学社会工学科4年)「密集市街地における住居外空間の領域形成に関する研究」
田畑弘之(東京工業大学社会学専攻修士2年)「木造住宅密集地域における災害時要援護者支援の取組みから見た地域防災力評価に関する研究」
中谷建文(東京工業大学社会工学科3年)「地蔵坂通りの提案」
藤賀雅人(明治大学理工学部建築学科4年)「震災復興まちづくり訓練プログラムに関する研究」
伊藤隆祐(明治大学理工学部建築学科4年)「東向島再生プロジェクトVol.1」

3月30日(土)
寺島集会所
で開かれました



発行 向島学会
代表 高木新太郎 131-0032
東京都墨田区東向島三丁目4番2号
03-3610-1378 (TEL・FAX)

入会金 3,000円
(学生会員 1,000円)
月会費 500円
(学生会員 100円)

郵便振り込み [00130-7-723191 向島学会]
「交流サロン」やHP等でも受け付けます。



仲間になりませんか!
向島学会では、会の目的に賛同し、活動に主体的に参加するとともに、活動の成果を会に提供する個人を対象に会員を募っています。会員2名の推薦が必要ですが、交流サロンなどに参加していただき、その後、会員に申し込まれることをお勧めします。
<http://www.mukojima.org/>

第二部 向島学会関連の活動報告・提案 (4時~5時)

- 1) 向島アート・まち大学 今年度の活動報告(曾我)
- 2) 鈴木荘プロジェクト 進行報告
(大崎、トリのマーク、曾我)
- 3) 向島ドイツ・オッテンゼンの地区交流
(ハンブルク・アルトナーレ)(長谷川、山本)
- 4) まちづくり計画策定担い手支援事業
(山本、真野)
- 5) その他





一橋大の松田さんからは、「アートのまちづくり」という視点から、米国サンフランシスコのミッシオン地区の壁画について報告がありました。南米の壁画運動を引き継ぐ形でラテン系住民によって始まった壁画アートですが、当初の政治対抗色から純粹(ニユートラル)な壁画へと展開する中で、まちとのニユートラルな関係が築かれていった様子が示されました。

同じ一橋大の井上さんからは、更新するという文化が地域社会にどのような関係づけられるのかについて、社会学の視点から報告がありました。「空き家」を切り口に、スクラップアンドビルドという履歴の残らない住宅更新文化のなかで、空き家はそれに対抗するものとして「古い・古い」を指定すること、「新しくない」に肯定の文化の可能性を見ることが、世代を越えることを探っています。

会場からは、人という側面からみて、跡継ぎや若い人をしていくかという課題の大きさと地域に開き続けることの意味を問わり続けながら探っているという意見、また、SFでの壁画は多文化理解の契機であり、地域の独自性を探りながら自分たちの地域で何をしていくのかという課題について、意見交換がありました。

東工大の村松さんは、向島地域での「村組」から「図子」へ、そして「町会」へと、重なりつつも変遷する地域の市民社会組織のあり様と変容過程についての研究を発表しました。こうした変容は東京あるいは日本の多くの地域で見られます。そして、いくつかの地域ではそれに重なるようにして、木造住宅密集市街地が形成されています。その形成過程を地域組織の過程と見合わせることで、モノだけでなく課題解決の方法論を探っていきたい、とのことでした。

同じ東工大の飯島さんは、住居外空間の特性を抽出し、制度提案の前提を深めていくこととしています。戦前戦後で道路区画に变化のない東向島地域でも、「道の設え」という面で見ると、空間利用や領域形成の違いが見られます。公道へはみ出した路地園芸なども含めた路地文化の設えをルールづくりし展開できるのではないかと、その先には路地景観という視点もあり得ます。

会場からは、京島で路地園芸の文化祭をやるよという話を持ち上げられていること、また、町会の地域差には神社の

役割が重なり領域が不明瞭で、遊郭なども図子を形成している、地域の比較だけでなく、地域の独自性を追究して欲しい、との声がありました。

東工大の田畑さんからは、「要援護者支援と防災」について、自治体の取り組みの現状を中心に報告がありました。東京都23区では防災対策に福祉部局が対応し始めており、公的な事業としての取り組みが弱まっています。墨田区では民生委員が全高齢者にふれあい訪問事業をおこなっていますが、情報共有の難しさから、支援プランづくりや体制づくりに問題が見られます。

東工大3年の中安さんは設計演習で、地蔵坂に面する小学校裏まちづくり用地を対象に、住環境のリスクと問題点を歩行者の視点から捉えて歩道空間を強化する提案を出しました。地区内には多様なオープンスペースがあり、そこに独自性の強い空間差し込むことでネットワークをつくります。歩道の障害物を取り除くことで、「路地園芸」から「ミニユニティガーデン」に転換するという提案です。

会場からは、支援事業に対して、行政がどう関わるべきかという疑問とともに、住民相互での支援が大切との意見が出ました。取り組みの進展をどのような評価基準でも行政と住民の関係が弱いといった指摘がありました。まちづくり用地の使い方には、道路も含めて行政がどう関



わるのかという視点や、歩車分離の可能性以前にそうすべきかどうかの検討が必要といった意見がありました。

明治大の藤賀さんからは、震災復興まちづくりプログラムに関する課題が示されました。同プログラムは都内で19地区おこなわれたが、その内容を評価する指標はまだなく、効果的なプログラムを構築する上での課題を指摘しました。

明治大の伊藤さんからは、卒業設計の発表がありました。「東向島再生プロジェクトVol.1」では、地域の課題として空き家の存在、社会的課題として高齢ホームレス問題を取り上げ、敷地を鳩のまち商店街裏の住宅地にとつて、「地域共生の自立支援施設」群を配っています。



後半は、学会事業やイベントの報告、告知が続きました。